

第6回長井市振興審議会 会議録

開催日時:平成25年10月31日(木) 15時00分 ~ 18時00分

開催場所:長井市役所 3階 第一委員会室

出席者:27名(委員16名、事務局11名)

■振興審議会委員 加藤弘二委員、勝見裕子委員、北川忠明委員、馬場先委員、渡部秀一委員、鈴木喜典委員、安部義彦委員、岩井由美子委員、青木孝弘委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、横澤泰雄委員、鈴木周子委員、齋藤眞知子委員、磯村志津香委員、平吹登委員 (出席16名、欠席2名)

■事務局 遠藤健司副市長
松本弘市民課長、梅津和士商工振興課長、鈴木一則企画調整課課長、谷澤秀一総合計画主幹ほか6名

傍聴者: 1名

【次第】

1 開会

2 あいさつ

3 報告

(1)これまでの経過について

①意見公募・地区説明会の結果について

②修正内容一覧

4 協議

(1)基本構想(案)について

①基本構想(案)の構成の修正について

②目指すまちの姿(将来像)について

(2)基本計画(案)について

①基本計画(案)の追加・修正について

(3)今後の進め方について

5 その他

6 閉会

【議事録】

1 開会

2 あいさつ

(北川会長) 皆様、お疲れ様でございます。第五次総合計画は、これまで市民のアンケートや地区説明会での意見をいただき、市民参加によるまちづくり計画として充実してきたと思います。今回は特に前回積み残していた産業分野を中心に、引き続き取りまとめをお願いしたいのでよろしくお願いします。

3 報 告

(1)これまでの経過について

事務局より、資料1・2を用いてこれまでの計画の報告を行いました。(質問等なし。)

4 協 議 [座長＝北川会長]

(1)基本構想(案)について

①基本構想の構成の修正について

②目指すまちの姿(将来像)について

事務局より、資料2、3を用いて基本構想の構成の修正について説明しました。

- (会長) 事務局からの説明がありましたが、まずは、人口についてお聞きします。
振興審議会では2万6千人で妥当だということになったがいかかがか。説明会では、市民の方からは今まで3万人だと言ってきたが、どうして2万6千人なのかという質問があったということですが、そのように聞かれたら、皆さんどうでしょうか。ベストは3万人だが、2万6千人は現実を踏まえて、10年後これを絶対切らないという決意のようなものだと私は考えています。
- (委員) おっしゃる通り、3万人は夢だと思います。到底実現できないものを目標にしても、あの目標は何だったのかとなるかもしれないし、2万5千人では当たり前すぎる。では2万7千人はどうかというと、頑張って実現する数字というものが大事で、実現があまりにも難しい数字は疲弊するだけなので、2万6千人は妥当だと思います。
- (委員) 今は人口減少社会なので、長井だけが增加することはありません。どの市町村も人口推計は厳しく見えています。2万6千人は厳しく見てそれくらい。この厳しい状況で千人、2千人の維持が本当にできるのかというところを議論していかないといけません。
- (会長) 2万6千人はミニマムだという目標で、そんなに減らなければいいということ。本当に達成できるかということですね。
- (委員) 推定よりも千人多くしているが、齋藤委員や横澤委員などいらっしゃるの、産業的な部分でどうかお聞きできたらと思います。
- (委員) ここ2、3年は収益や従業員数は増えています。経営者は3年、4年後を見据えて夢を描いていくべきです。企業で重要なことは何をやりたいかということ。トレンドを知っていなければ手は打てません。
2万6千人は最低限の目標だと思いますが、施策は3万人を目標にやっていかなければいけない。実際人口は増えているところもあるので、仕掛けていかなければなりません。
- (委員) やはり人口に関しては、産業が一番大きな役割を持っているのではと思います。2万6千人はだいたい検討した数字だと思いますが、それなりの施策があれば、もう少し高い目標を持ってもいいのではないかと思います。
- (会長) 思い切った施策を打ち、経営者も頑張るといってやっていくしかないと思います。人口推計の下の方に合わせるとますます元気がなくなってしまう。2万6千人を最低限にして、できるだけ維持していくという決意ということはどうでしょうか。
- (委員) 基本構想6ページにあるように、2万5千人という推計は出ているので、人口を維持するような施策を掲げるという議論をしていく必要があるのではないのでしょうか。
ポイントは生産人口の拡大です。産業興しや農業を拡大し生産人口を拡大する。今までそういった意見も出ているはず。目標人口の数字はいらぬのではないのでしょうか。
- (会長) 最低限のラインは設けて、もっと高い目標に向けて施策を打っていくということはどうでしょうか。
- (委員) 推計では2万5千人と出ているので、人口減少については議論の余地はない。人口減少を抑制する施策に尽きるので、数字を出してもあまり意味がないのではないかと思います。数字で捉

えるのではなく、人口減少を抑制するというそのものを目標とすればいいのではないしょうか。

(委員) 人口が少なくなったから幸せではないという話でもないし、3万人だからいいまちという感覚はないです。2万5千人という事実だけで十分で、その中でいかに幸せに暮らしていけるかが重要だと思います。

(委員) 目標人口を設定しなければならない理由はありますか。例えば、税金などを想定しているなど。

(会長) 税金や財政の規模を考えていることだと思いますし、そのうえで適切な人口規模を考えてのことかだと思います。

(委員) ある程度の人口がいなければ維持できなくなるので、一定の目標を定めるということでしょうか。

(会長) 人口が減り続ける中で、人口ピラミッドをある程度きれいな形にしていくためといえます。人口を維持していかないとまちも行政も活力がなくなります。

(委員) ある程度目標を掲げる必要があると思います。千人は容易ではないが、目標をたててそれに向かって取り組んでいくことが大事。具体的に数字があった方がまとまりやすいと思うので、数字はあったほうがいいです。

(会長) やはり最低限の目標を設定し、それを上回るように施策を打って取り組んでいくということでしょうか。数字を外すとどうなるか。

(委員) 外すとすっきりする。現在2万6千人以上いるのに、今より高い数字でないと目標ではないと思う。人口減少を抑制するというこそ目標でないかと思う。

(委員) 目標は多少オーバーにしておかないとダメだと思います。例えば、私の会社ではコストを半分にしろと言っています。

(委員) 2万6千人は目標というよりは指標であり手段ではないかと思います。肝心なのは施策。人口には定住と交流があります。定住にこだわりすぎると今のような議論になります。70人の観光客で1人の定住人口になるといわれているので、交流人口をどれくらい増やすのかということも含めて考えてほしいと思います。

(会長) 数値は出さないほうがいいのかという意見が多い気がするがどうでしょうか。

(事務局) 皆さまのご意見はごもっともですが、行政運営としては10年後の目標として、数値目標は出していきたい。子育て支援や産業立地などするにしても、目標や想定的人口が必要になってくるので、ぜひ設定させていただきたい。

(委員) 人口のグラフの中で、マルコン電子とハイマン電子の消滅との因果関係はありますか。また、東芝ライテックが閉鎖したことの影響はありますか。

(委員) 目標値を定めたからといって、将来の長井市の財政に影響するのですか。

(事務局) 直接的に影響することはありませんが、財政を推計する際に市民一人当たりの交付税の概算など見るには重要な数字になります。「目標」ではなく、「想定」する人口という表現方法も可能と考えます。

製造業の従業者数や出荷額等は減少しましたが、人口への影響について具体的なデータは持っていません。東芝ライテックが撤退し、長井からどれくらい移動したかということについて別の者から説明します。

(事務局) 3月で東芝ライテックが閉鎖されました。それにより従業員は鹿沼に行った人もいます。8月時点で計100名以上が職を失っています。世帯で移住された人は20数人と聞いています。

(会長) 10年後も現状を維持するためには、合計特殊出生率を2倍以上に上げなければならず、非常に難しい。数値の根拠というのは必要なのではないかと思います。今の目標でもかなり高い数値なのではないかと思っています。

- (委員) 挑戦する目標は限りなく高くしていかなければならないのでは。挑戦することがこのまちに必要です。
- (委員) なぜ人を増やさなければならぬかという疑問があります。2万5千人になっても幸せであるような施策を作らなければならぬのではないのでしょうか。人が多いことが幸せなのでしょう。数値はいらぬと思ひますし、推計の数値をそれほど尊重するならそのまま受け入れるべきでは。企業にしても、変化に対応した企業が生き残っています。
- (会長) 目標人口を示すことに否定的なご意見が多いようですが、事務局としてはどうでしょうか。
(事務局) 文言の整理として、「目標人口」を「想定する人口」などと修正を加えたいと思ひます。
(会長) 表現を考へていくということによろしいか
(一同賛成)
- (会長) 続いて将来像についてご意見があれば出していただきたい。
- (委員) 「水のふるさと」というのはノーマルだと思ひたので、「輝く水と希望のわく里」という案を出させていたいただいた。それに限らず、長井のイメージが目には浮かぶような意見をもっと出していただけたいと思ひます。
- (会長) 今の意見についていかがでしょうか。
- (委員) 私は「心ひとつに睦ゆく市民の幸せ、水清き里ながい」というフレーズを案として出しました。「長井の心」を代弁しているものかなと思ひたので、市民歌と長井小学校校歌から引用しました。
- (会長) 長井のイメージがよりわくような表現にしたらどうかということだが、いかがでしょうか。
- (委員) 現在の案は難しくて子どもたちにも浸透しないと思ひます。「心通う豊かな水のふるさと長井」のようなシンプルですらすらと言へるようなものの方がいいのではないのでしょうか。
- (委員) 私は今のままで結構かなと思ひました。
- (会長) 「輝く」や「水清き」などをつけるかという修正かと思ひますがどうでしょうか。
- (委員) 事務局にお任せして、素敵に仕上げたいと思ひます。
- (事務局) 委員から出していただいた案は、説明文の中などで表現していきたいと思ひます。
- (会長) それでは原形のままによろしいか。
(一同賛成)

(2) 基本計画(案)について

① 基本計画(案)の追加・修正について

事務局より、資料2、4を用いて基本計画の追加・修正について説明しました。

- (会長) ただいま事務局から説明がありました内容について、委員の皆さんからご意見やご質問はございますか。
(なし)
それでは前回の積み残しの産業分野の協議をお願いします。

● 農林業振興分野

- (委員) 10年後の長井の農家が減るか増えるかということについては、かなり大変だと考へています。この成果指標は所得の多い農家が増やすとありますが、推計の仕方が何かあるのか。
また、レインボープランをどうしていくかという問題があります。レインボープランの農産物が少

ないのではないのでしょうか。どこに原因があるかわかりませんが、レインボープランは長井の目玉なので、力を入れていくとした、この程度の施策でいいのだろうかと思います。

(委員)

農業振興と環境保全型農業が分けて書いていますが、今後は農業振興につながる環境保全型農業にしていかなければならないと思います。分けて明記をするのはどうかと思います。

レインボープランの農作物の購入については伸びていません。原因は協議会で議論している部分もありますが、行政と一つの問題と一緒に関わることが大事だと考えています。

(事務局)

農業者については、基本構想において減少していく推計になっています。農業センサスの年齢別では65歳以上が62%以上となっていますので、農業の10年後は厳しいとみています。ただ、その分若い後継者も出てきていますし、今後土地も集約化されていくものが増えていくという考えで、成果指標を設定しました。

レインボープランの消費者拡大については、レインボープラン認証農産物の認証面積を増やしていくという考え方で進めていきたいと考えています。

(会長)

農業振興と環境保全型農業は将来一緒にしていくべきで、分けて書いてはどうかということについてはどうでしょうか。

(事務局)

一方では規模拡大、一方では環境保全型で、今はそれぞれの動きですが、将来的に長井の農産物をブランド化していくときに、ネームバリューがあるレインボープランを活用していくことの議論は必要だと考えています。集約化で規模拡大しながら、ブランド化も一体的に進めていきたいと思っています。

(委員)

林業について心配しています。現状はどう森林を守っているのか。また、市民がどのような形でどのように参加していくことを考えているのでしょうか。

(事務局)

林業は、長井は0件です。ただ、私たちの役割として水源地域を守っていくという役割があります。市民との協働については、例えば不伐の森では、市民グループの「不伐の森に親しむ会」が年に数回整備しています。山形工科短期大学校も保全活動に取り組んでいただいています。また、21世紀不伐の森も平野地区の方々が植林したりするなど、行政と市民が協力してこれからも取り組んでいきたいと思っています。

(委員)

ボランティアなどは限界があります。積極的に行政がやってくれないといけないと思います。

(事務局)

林業は、長井市は脆弱な部分です。消費を拡大するには国や県の施策によって拡大していかないと、これからの林業は難しいと考えています。

(委員)

近年問題の外国人からの売買は、これから気を付けていかなければならない問題かと思う。

(事務局)

県が定める水資源保全地域というものがあり、今年度長井市が指定を受けましたので、この問題については対応できると思います。

●工業振興・商業振興・観光振興・雇用対策分野

(委員)

市内で買い物をする人の割合が指標になっていますが、長井の商店で買うという根拠はあるのでしょうか。中央資本のものを買っている状態では長井の商店は発展しないので、10年後には地元の商店から買う人が増えるという取り組みできないのでしょうか。

(委員)

産業については指標全体が、トーンが下がっている気がします。理由はあるのでしょうか。

(事務局)

県の調査では、長井市に近隣から買い物に来る人が増えています。特に川西町から長井に来る人が増えているようです。どういう理由かはまだ分析されていませんが、長井の商店が頑張っているからだろうと思います。

工業振興分野の指標の根拠としては、弱電から高付加価値な事業に転換するための各種研修等の取り組みに参加している企業を増加させることで、産業転換をめざし、雇用を少しでも増やしていこうとしています。従業員数の5年で200人増加という目標値の根拠は、社会減1年150人の内、1年で40名、5年で200名を工業でカバーしようということです。

商業振興分野については、中心市街地で街路事業に取り組んでいることから、今後も市内での買い物割合が増加するものと想定し、これまでの伸び率から試算しました。

雇用対策については、ハローワークの倍率は東芝ライテックが撤退する前の数字であり、すでに達成しているのもう少し高くてもいいのかもしれませんが、消費税増税などがあり、雇用が不安定になる要素があるので、10年後の数字は1倍としたいと考えています。

(事務局) 観光については、観光振興計画を昨年策定し、交流人口を年間20万人増やすことを目標としていることに基づくものです。

(委員) 現在交流人口が60万人とあるが、市内の人が市内に行っているということも認識しないといけません。10万人というのは高い良い目標だと思いますが、あくまで指標。施策が大事です。

(事務局) 資料によると、例えば久保桜の自動車ナンバー調査では、山形県は75%、それ以外は25%などのデータはあるようです。

(委員) 商業振興分野について、まだ中心市街地活性化計画はできてないということですが、非常に大きな指針になるものだと思います。現在記載の内容との整合性をどう取っているのでしょうか。中心商店街としては設備投資など攻めの戦略が必要だと思いますが、どうお考えですか。

(事務局) 中心市街地活性化計画は来年度の策定を目指していますが、観光計画、都市再生計画など関連する計画があります。直接的には書いていませんが、施策の目標に記載の内容から読み取っていただきたい。よりよい計画を作っていきたいと考えています。

(委員) 中心市街地の10年後の姿がどうかということが大事かと思います。本町商店街が生き返るようなプランがあることを期待しています。そこには複合施設や図書館などの核となる施設ができると聞いていますが、今はまだ何もありません。プランがあっても、それぞれが勝手にやっているのではないかという心配があります。

(事務局) 土地の利用計画はまだはっきり持っていません。考えとしてはまちなかに人が集まる公共施設を集中させようとはしています。集中した人をどう商店などに流すかについては市民の皆さんと一緒に検討したいと思います。

(事務局) 中心市街地活性化計画は関連する個別計画になりますので、追記したいと思います。

(委員) 観光地域づくりプラットフォームについて教えてください。

(事務局) 観光の柱となるものであり、観光にかかわる団体を連携させなければならないだろうということで、観光に関係する団体が連携する組織です。3年計画で取り組みを始めています。

●都市整備・住宅、道路・河川、上下水道、公共交通分野

(委員) 公園の高い松の木の剪定の整備計画はありますか。また、長井は歩道の整備が遅れていると感じますが、年次計画などがあってきちんと整備しているのでしょうか。

(事務局) 松の木についてはお金がかかる高所作業になりますが、公園の長寿命化計画のなかで検討していきたいと思います。歩道は具体的には示していないが、10年間で想定する道路管理の数字が挙がってきているので、相談していきたいと思います。

(委員) 住民との協働に関して、河川やPFIなど明確に方向性が明記されています。これは、以前の総合計画にはなかったものであり、それが入れてあるので評価できます。民間活力の活用については、もっともっと広げてほしいと思います。

●その他個別施策全般について

(委員) 小学校の耐震化や対策はやっていますか。

(事務局) 学校はすでに耐震化を終えました。長井小学校の木造校舎は文化財でもあることからまだ方

向性が定まっていますが、26 年度に耐震検査を行い、今後保存して活用していきたいと考えています。

公共施設で昭和 56 年 6 月以前に立った建物は耐震診断を行い、今後の整備について検討していきます。

(委員) コミュニティ分野について、地域づくり計画というのは重要だと思います。総合計画の 10 年と地域づくり計画の 10 年を合わせて、今後 6 地区が総合計画のようなものを作っていく予定なのかということをお聞きしたい。

(会長) かならずしも総合計画と地区の計画は連動するものではないので、できるところが先行して取り組んでいるとしても、それで構わないと思います。

(会長) 全体的に追記修正などありますが、それは事務局に適宜修正いただくこととして、基本的にはこの内容でよいということによろしいでしょうか。

(異議なし)

(3) 今後の進め方について

事務局より、資料5を用いて今後の進め方について説明しました。

(会長) 今日の議論を踏まえた修正のほかに、答申までの間に修正すべき事項が出てきましたら、私と事務局で協議のうえ修正し、答申する内容としていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

5 その他

特になし。

以上